



### 高校生「授業料無償化で励まされた、見直さないで」 9・14 中央行動に 500 人

9月14日、中央行動がとりくまれました(写真)。これは、9月末に予定されている人事院勧告での公務労働者の賃金、労働条件の改善を求めた行動で、全国から500人(長崎高教組からは寺田書記次長が参加)の参加と各職場でとりくまれた抗議の「ジャンボハガキ」3,800枚が届けられました。この後、「高校無償化」見直し反対の集会在議員会館で行われました。これは自・公・民の3党で「子ども手当」、「高速道路の無料化」、「農業個別所得補償制度」、「高校授業料無償化」について「見直し」などを約束する確認書を取り交わすという情勢を受けて開かれたもの。

集会は議員の秘書を含む100人が参加し、高校生、大学生、中学・高校の教員、父母など13人が「無償化見直し」反対の意見を切実に発言しました。高卒の資格がなければまともに働けない日本の状況の中で、お金がなければ学べない状況をつくってはいけないことや高校生の「不徴収になって励まされた」の声を広げ、「見直し」をさせない国民的合意を前進させていくことを確認しました。

定年年齢は、13年4月からは1歳ずつ定年年齢を引き上げ、25年4月には65歳定年年齢とする。60歳超職員は、60歳に達した日の属する年度から、60歳前の年間給与の70%水準となるよう設定する。

①俸給月額額は、個々の職員の60歳前の俸給月額に一定割合を乗じて得た額とし、60歳超職員は昇給しないものとする。②諸手当は、基本的に60歳前の職員と同様の手当を支給する。ただし、俸給月額に応じて手当額を設定している手当については、60歳前の手

以上のような情勢のもと、各職場でとりくんでいる労働条件改善の重点要求署名を完全にやりこめることが求められています。

## 2011人勤情勢 減額に減額を重ねる方向

### 求められる職場からの声、署名をあげる

全教・日高教が結集する全労連公務労組連絡会による人事院交渉の情報(9月14日)によると、今年の人勤(月末予定)は「きわめて重大な局面」となることが予想されています。その主な内容は、①現給保障を2年間で廃止する ②3年連続のマイナス勧告となる ③定年延長に対する「意見の申し出」で年間給与を70%に減額する意見が述べられる、などです。(9月20日付け長崎高教組速報10号を併せて見てください) こうした勧告や「意見の申し出」は地方に波及するのは必至で、職場からのとりくみが一層大事になっていきます。公務連絡会の人事院交渉状況を次のように述べてみると、当局は検討しています。

高齢層の退職者の減少、新規採用の抑制等の影響で、行(一)職員の平均年齢は昨年と同程度の伸びとなり、平均給与額が上昇している。民間企業の賃金改定状況は、各種調査で昨年と同程度であり、他方で公務員給与が上昇していることから、改定はマイナスとなる可能性が高い。一時金も集計中だが、各種調査を見ると、民間の昨年冬のボーナスは対

前年比で増加となつているものが多かったが、対前年比マイナスのものもある。今年の夏も対前年比プラスとなっている調査がある一方、マイナスとなつているものもある。

### 50歳台職員の給与大幅ダウンを示唆

昨年の勧告で55歳を超え、12年4月から5割を削減し、13年4月に残りの額を削減することとした。それでも50歳台職員の給与は民間より相当高く、来年以降50歳台職員における昇給、昇給のあり方などを検討していく。

# 長崎高教組新聞

発行  
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号  
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合  
☎ (095) 827-5382  
FAX (095) 826-2976  
編集責任者 平井秀治  
一部 10円

高教組メールアドレス  
info@nagasaki-kokyoso.org

### 書記局から

■人事関係の校長会 県教委は来年度の人事に関する説明を行うため校長会を10月4日(火)に開催予定。分会は方針に対し、職員会議で質疑、確認などを行ってください。各職場に震災地での活動に従事した教職員(含む未組)がいましたら、書記局に連絡を。募金からの補助を行います。

### 大分県当局 労働法のポイント作成配付

佐賀県では 給付型奨学金制度の検討に

要求の一致で集う教組 3日から16日、九州各県で要請、宣伝行動を行いました。これは3年目のとりくみで、経済格差が教育に深い影響を与えているとして、修学・進路保障を行政の責任で行うことを求めたもの。スタートの13日の長崎行動には、日高教の坂本副委員長や佐賀高教組委員長、県労連、新婦人、高教組本部役員が、福岡行動には長崎から馬場書記長が参加しました。14日の大分、佐賀の行動には平井委員長が参加。大分では、県当局が高校生向けに冊子「労働法のポイント」(A4版12頁)及び名刺判の「就業相談SOS連絡先」を作成し配付していること、佐賀では給付型の奨学金制度が検討されていることなどの前進面が明らかになりました。



▲教組共闘(写真左)による長崎県交渉

●日高教はこの程、新たな高校教育政策「高校教育再生の道はどこにあるのか」の提言(一次ダイジェスト版配付)を行いました。本部執行委員がそのポイントとともに、論議をすすめる上で参考にして欲しい点をまとめました。●

**第3章 「子どもたちが高校入試で苦しまないように」について**

長崎高教組書記長 馬場 隆

この章では、これから踏み出すことで、高校の高校教育の枠組みを考へながら「希望者全入」の方向性とその意義を説いていきます。そのポイントについて、ダイジェスト版では次の3つの論点が提示されています。

①全日制の高校で学ぶ機会をすべての子どもに保障することをめざす。

提言は、定時制・通信制が不登校や中退経験者の「やりなおしの学校」としての役割など重要な役割を持つていることを認めつつも、全日制へ行けない子の「受け皿」として扱われ、不本意入学が少なくない現状から、すべての子どもが全日制(フルタイム)の条件で学べる制度的枠組みをつくるべきだとしています。この点については、定時制・通信制の意義をどう考へるかが議論になるでしょう。私自身は、働きながら学ぶことができる「パートタイムの学校」の意義を重視すべきではないかと考えています。

②「希望者全入」に踏み出すことで「地域の高校」になることをめざす。

これは、私たちが求めてきた「小学区制」が実現しない現状で、多くの学校が「希望者全入」

ちを育てる「地域の高校」になるという展望が示されています。

※学区制や高校入試についての考え方は本編(22頁)に展開されていますので、そちらもお読みください。

③「地域の高校」は「やりなおしの場」としての役割をもつ。

「地域の高校」は、その地域の子どもたちを引き受けるわけですから、中学校と同様に学力の到達度が多様な生徒たちが入学してきますし、不登校をするのではなく、「希望者全入」をすすめることも受け入れることになるので、それぞれの学校では、定時制や通信制が果たしているような「やりなおしの場」となることが展望されています。

**第4章 「点数競争しないと高校って学べないですか」について**

長崎高教組委員長 平井 秀治

かつて、県教委の研修で講話を行ったある管等「高校生」がおり、歪まされた理職は、高校カリキュラムの特定科目を「受験生にとって息抜き」の科目と断定し、「時間割の結果である。上散らばるよう求めた。日高教は、受験学力を否定する立場には立っていない。」「競争中心」の科の科目を「暗記科目で苦手」とか、「副教科は毎日やる必要はない」とか言う生徒がいる。私自身もまた、世界史の授業でエピソードを語っている時ひとりの生徒から「センター試験には、先生、出まされんから先を」と促されて教室が凍りついた経験を持つ。

島原工業高の浦本貴明さんは、長崎高教組実教部の役員です。浦本さんは若い頃、フラメンコギターと出会い、その魅力に取りつかれました。その熱が昂じて、ついにフラメンコギターの製作にまで手を伸ばしています。

今回は浦本さんに、フラメンコの魅力とギターづくりについて尋ねました。

**▼フラメンコギターづくり▲**  
浦本貴明さん(島原工高分会)に聞く

**自分の思った音を奏でられるか「ワクワク」**

フラメンコギターとの出会いは?

20代の半ばにジブリ・キングスというバンドでフラメンコをベースにしたグループの音楽を聴いて魅了されました。そこで長崎に教える先生がいなか探したところ、長与町に住んでいることがわかりました。その師匠に出会ってから本当のフラメンコに引きずり込まれていきました。

「そもそもギターをつくらうと思っただけは何か?」  
教えてもらうようになっ

「その工程をいっつままで教えてください。」  
ギターの製作方法(クラシックギター類)はドイツ式とスペイン式の二通りがあり、ドイツ式は音響箱の部分を作ってネック(空)を後ではめ込む方法で比較的簡単にできます。スペイン式はネックの部分と箱の表面板を先に接着し、その後曲げた横板と内部の補強板、裏板などを順に接着していきます。スベ

イン式は少し熟練がいりまくのよう演奏の際の難しい決まり事がある。比較的曲種によつては自由に演奏できるので、基本的なフラメンコのコンパニオンに演奏でき、あまり難しい演奏に走らなくても楽しめる。

**「ギターづくりの魅力は?」**  
商売としてやっているわけではないので、気が乗ったとき自分のペースで納得しながら作れます。趣味として自分にとっても合っていると思います。段々と完成が近づくにつれ、製作したギターが自分の思った通りの音を奏でられるの

「これからの目標、あるいはやってみたいことは?」  
過去に長崎に来たスペイン人のギタリストから自分のギターを弾いてもらったことはありますが、評価はなかなか厳しいものでした。その人の感性にもよるので難しいです。

でも、自分の作ったフラメンコギターがプロのギタリストからどのような評価を受けるか、製作したギターをトップフラメンコギタリストに提供してみたいと思っています。

「夢が実現するように私たちも応援しています。高教組の集いでも演奏を披露してください。」  
わかりました。よろしくお願いします。



【写真】自作のギターで演奏する浦本貴明さん(島原工高)

「魅せられて」

「秋の教研は11月26、27日」  
長崎高教組の県教研は、今年度に限って、教組共闘九州プロ及び山口、佐賀両高教組とともに11/26、27日、長崎市で行います。

分科会内容は、「平和・人権教育」「生活指導・自治的活動」「登校拒否・不登校・中退問題」「参加と共同の学校づくり」「民主的学校のあり方」の5領域。講演は、福島原発問題に関わって、大矢正人総科大元教授にお願いしています。

各職場から参加できる態勢をとっていただきます。

ようこそ 今日こそ 高教組